

浜田市議会

議會広報聴委員会

宏

下記のとおり、派遣しましたので報告します。

1 期 間 平成 30 年 5 月 29 日 (火) ~ 31 日 (木)

(1) 静岡県 焼津市

(2) 静岡県 静岡市

ア 市民活動情報検索ウェブサイト「ここからネット」について

イ 高校生を対象とした意見交換会について

(3) 静岡県 ふじのくに県民クラブ

ふじのくにカフェについて

(4) 静岡県 富士市

ア 高校生対象の議会報告会について

イ 議会モニターについて

3 精算額 1人当たり 70,750円

4 派遣委員名

小川 稔宏、川上 幾雄、三浦 大紀、沖田 真治

西川 真午、村武 まゆみ、笹田 卓、芦谷 英夫、

田畑 敬二、澁谷 幹雄

5 随 行 主任主事 近重 昌德

6 調査の概要 別紙報告書のとおり

焼津市視察報告書

1 期間 平成30年5月28日（火）

2 調査研修内容

- (1) Facebook による情報発信について
- (2) 議会だよりのリニューアルについて 他

3 研修先 焼津市役所

4 調査研究活動の概要

(1) Facebook による情報発信について

SNS の活用をはじめた目的・現況についてヒアリングを行った。

- 市がすでにはじめていたので、導入・利用に問題や抵抗はなかった。
- 公式 Facebook や twitter などはない。課ごとに管理（Facebook は 10 個程度）。課ごとにしたのは、市民が自分に必要な情報だけを得やすくするため。
- twitter は手軽すぎるため、炎上やのっとりなどを避けるため Facebook を選択。
- 運用ポリシーは、市が利用していたもの、他市議会のものを参考にして作成。
- コメントの個別対応はしない。職員の負担が増えるため。続けることが大事なので。
- 事務局の職員が二人で担当。
- 更新回数は 4 回～5 回/月。
- 決裁は執らない（投稿後に上司がチェック、何かあれば修正）。今のところ問題は起こっていない。
- スピード感を持たせるために、日程情報などは、タイマー機能を使用（12:00 か 17:00）。
- Facebook すべてで議会情報発信を網羅はできないし、しようとも思っていない。あくまで一つの情報に接してもらうツールとして活用している。
- 近年、Instagram の利用者が多いということから、議会からの情報発信に適するのかどうか研究していきたい。当局の広報担当は活用している。

(2) 議会だよりのリニューアルについて

リニューアルした理由や議員との作業分担、制作における工夫や課題などについてヒアリングを行った。

- 専門講師による研修を行った（会議録センター）。研修を行って、意識が変わった。
- 地方議会会人のクリニックに応募。厳しく評価してもらった。
- 先進事例を紹介し、公民館に「どれがよいか」についてアンケートを設置（1 週間）。庁舎には 1 日窓口を設けて、市民の声をきいた。
- リニューアルで大きく変わった点は、見開きで特集ページがあること。4 号までは市内 4 高校生のインタビュー。その後は未定。

(3) 質疑応答

質問 FB の禁止事項にのっとっていくと、面白味ないページになってしまうのでは。そのあたりの葛藤はないか？

回答 個人的には注目を集めるような工夫もしたいが、人事異動もあるし、負担にならない程度といったところだとなかなか難しい。担当者が変わって、更新されなくなったものも過去に別の課であった。

質問 企画も事務局がつくるのか

回答 はい

質問 議員自身で記事を書くというものではないのか
回答 Facebook ページをもっている議員は 5 人。政党も異なるし、焼津市議会は以前からこのスタイル。

質問 Facebook を見て、議員の反応はどうか？
回答 ほとんどが定例会の情報。公務の研修なども掲載してほしいという声がある。

質問 市民から反応（コメントなど）はあるか？
回答 コメントはこれまで 1 回。オープン当初に議員の知り合いからの声援メッセージのみ

質問 21 の定数で、事務局体制は？
回答 8 名。局長 1 名。庶務課長、議事、庶務担当。

質問 議員の拡散協力はあるか？
回答 だんだんしなくなっているというのが実情

質問 投稿には写真掲載が必須との話だったが、今使っている写真はどうか？困っていないか？
回答 使い回し。議員の掲載に不公平感がでないようにという意見などもある。

質問 浜田市議会の視察風景は掲載しないのか？ぜひ、載せてほしい。
回答 載せる

質問 一般会計、特別会計がそれぞれ 20 億くらい減っているが、理由は何か。
回答 ふるさと納税が減ったことが影響。返礼率の制約がきつくなったため。

質問 ネット配信は行なっているか？
回答 LIVE と録画で行なっている。

質問 議場の撮影許可は？
回答 委員長、議長が許可する形。

質問 横書きから縦書きに変えたの理由は？
回答 先進地視察でも、市民からの声もあって。



やいづ市議会の Facebook ページ



ヒアリングの様子



投稿された記事（議会日程）



リニューアルされた議会だより



企画連載（市民インタビュー）の第一弾

5 所感

- 情報発信のチャンネルを増やすという点においては、SNS の活用は有効であると確認できたが、投稿する記事の内容については、フォロワーの獲得を目的とする場合には考慮する必要がある。
- 発信したい情報の種類や頻度及び予算に応じて、最適なアプリを選択し活用をすべき。30 歳台以上ではユーザーが多い Facebook は、導入の検討に値するが、目的、記事の内容、および、運用主体に関する議論が必要。
- また、焼津市の議会だよりは大幅にリニューアルされ、フルカラーでもあり大変読みやすいものとなっている。特筆すべきは、巻頭 2 ページにわたり掲載されている特集部分。市民との距離感を縮めるために企画されたインタビュー（初回から 4 回までは市内の高校生）が功を奏し市民からの支持をえているようであった（事前調査も行なっているので、評判がよかったもののスタイルを参考にしているため）。表現やデザインにも工夫がなされている。
- 浜田市においても、予算、業者・事務局・議員の役割分担を明確にして作業効率をアップするとともに、読みたいと思うメディアへの工夫・検討が必要である。

1 静岡市の概要

静岡市は、平成17年4月1日、全国で14番目の政令指定都市となった。市域の70%が山間地で30%の平野部に集中した市街地を形成している。産業では、商業やサービス業などの第3次産業や港湾関連産業が盛んであり、商業都市としての性格と駿河湾臨海工業地帯の中心として顔を持っている。江戸時代以来の伝統と優れた技術による駿河雛具などの伝統工芸や木工製品などをつくり出す地場産業、さらに清水港を中心に発展してきた食品関連産業や機械器具製造業などのものづくり産業の歴史と伝統を有しており、農業では、みかん、いちご、わさびなどが特産品として生産され、水産業では、マグロを主力とした遠洋漁業のほか、駿河湾の特産品である、しらす漁・桜えび漁を主とした沿岸漁業が中心で、自然景観や多くの史跡に恵まれていて、Jリーグ清水エスパルスのホームタウンにもなっている。

- 市政施行 平成15年4月1日
- 人口 704,043人 314,077世帯（平成30年4月1日現在：住民台帳（日本人+外国人））
- 市域 141,190km²（面積 東西50.62km 南北83.10km）平成27年4月1日現在

姉妹都市

都市名	提携年月日
ストックトン市（米国カリフォルニア州）	昭和34年10月16日
オハマ市（米国ネブラスカ州）	昭和40年4月1日
シェルビービル市（米国インディアナ州）	平成元年11月3日
カンヌ市（仏国アルプ・マルティーム県）	平成3年11月5日
北海道室蘭市	昭和50年12月24日
新潟県上越市	平成7年10月22日

友好都市

都市名	提携年月日
フエ市（ベトナム社会主義共和国トゥア・ティエン・フエ省）	平成17年4月12日
長野県佐久市	平成元年10月12日

※ 合併前の旧市町における提携年月日を記載した

正規職員数（平成29年4月1日現在）（人）

市長部局※1	4,087	人事委員会事務局	11
消防局	1,038	監査委員事務局	11
上下水道局	339	農業委員会事務局	11
教育委員会事務局	466	議会事務局	21
選挙管理委員事務局※2	12	合計※3	5,999

※1 教育委員会職員のうち、市長部局へ併任の職員12名を含む。

※2 選挙管理委員会事務局には、区選挙管理委員会事務局をふくむ。 ※3 育休代替職員を含む。

2 静岡市議会の概要

- 条例定数 48人
- 現員数 47人 うち女性議員5人
- 議員平均期数 3.8期 （平成30年4月1日現在）
- 議員平均年齢 57歳 （平成30年4月1日現在）
- 最長在職議員 11期



※ 議会事務局のある、元庁舎は昭和9年に建造。空襲から逃れる為に黒い布で覆い隠したとも言われており、戦災に遭わずに今でも市の議事堂と市民ギャラリーとして、現在も大切に使われている。平成23年9月30日に景観重要建造物に指定されている。

常任委員会

委員会名	人数	所管事項
総務	8	総務局、企画局及び財政局の所管に関する事項並びに他の常任委員会の所管に属さない事項
市民環境教育	8	市民局、区役所及び環境局並びに教育委員会の所管に関する事項
厚生	8	健康福祉長寿局及び子ども未来局の所管に関する事項
観光文化経済	8	観光交流文化局及び経済局並びに農業委員会の所管に関する事項
都市建設	8	都市局及び建設局の所管に関する事項
企業消防	8	上下水道局及び消防局の所管に関する事項

特別委員会

委員会名	定数	設置目的
人口減少対策	10	人口減少及び地方創生に対応するため、定住・交流人口の増加及び、全ての市民がいきいきと暮らせるまちづくりに関する協議・討議（意見交換）・提言等を行うこと
中山間地活性化調査	9	中山間地の活性化及び振興策の調査及び整備に関する協議・討議（意見交換）・提言等を行うこと
総合交通政策	9	交通弱者への対応及び交通網の整備による地域活性化のため、各地区の実情に合わせた総合交通体系のあり方に関する協議・討議（意見交換）・提言等を行うこと
清水都心まちづくり	9	清水都心及びその周辺地区の賑わい・交流を創出するため、清水港の魅力を活用したまちづくりのあり方に関する協議・討議（意見交換）・提言等を行うこと

議会運営委員会

- ・定数 10名
- ・交渉団体 (4名以上の所属議員を有する会派) から選出する。

選出基準は、所属議員が4人のときは1人とし、所属議員4人を加えるごとに1人を増やすことができる。

- ・任期は1年
- ・正副議長の出席
- ・委員外議員として出席
- ・委員の代理出席
- ・委員席に着き、発言は認めるが表決権はない。
- ・非交渉団体(会派)
- ・委員外議員として代表1人の出席を認める。
- ・表決権はない。

- ・傍聴者数(平成29年度) ・本会議 767人 ・委員会62人
- ・視察受入議員数(平成29年度) ・都市数77都市 ・議員数504人

市議会だより

- ・発行回数 ・年4回 (定例会後に発行。ただし、臨時会号を発行する場合あり)
- ・発行部数 263,600部・配布方法 ・市広報誌に併せ、町内会・自治会を通じて全戸配布
- ・規格 ・サイズ タブロイド版 ・書式 ・横書き ・項数 ・6項(増減あり)
- ・視覚障がい者への対応 「点字版」「カセット版」「デージーCD版」(ボランティアやまびこの協力のもと音源を制作した)
- ・掲載内容 ・定例会のあらまし、代表質問、個人質問、委員会活動報告、賛否一覧、
・可決した議決・意見書、次回定例会のお知らせなど。

市議会のホームページ (http://www.city.shizuoka.jp/000_000260.html)

- ・開設 ・平成15年4月1日
- ・内容(コンテンツ) ・議長・副議長あいさつ、市議会概要、議員名簿
会議日程、通告一覧、議案・審査結果、請願・陳情、会議録の検索、インターネット議会中継
議員提案条例、広報・情報公開、市議会の動き、傍聴・見学案内、行政視察案内、静岡市議会における
議会改革への取組、子ども向けページ、市議会関連リンク、その他情報

平成30年度 静岡市財政

歳入区分	金額 (千円)	歳出区分	金額 (千円)
自主財源	165,493,559	義務的経費	182,280,943
依存財源	146,706,441	投資的経費	41,654,424
		その他の経費	88,264,633
合計	312,200,000	合計	312,200,000

3 視察内容

① 視察日時 平成30年 5月30日 （水） 9:30～11:00

② 調査事項 1 市民活動情報検索ウェブサイト

「ここからネット」について

2 高校生との意見交換会について

1 「ここからネット」についての報告・感想

5月29日の焼津市議会に次いで30日は静岡市議会で行っている、ウェブサイトでの情報発信と高校生との意見交換会、浜田市議会ではどちらも取り入れていない取組で、「ここからネット」については、全国でもネ

ットで市民活動を支援、紹介する試みは先進的な取組で「ここからネット」についての視察は、浜田市議会が第1号で「ここからネット」について説明していただいた、静岡市市民局市民自治推進課の佐々木係長はシステムの担当者を庁内で公募したところ、佐々木係長が自ら志願して担当をされて2年間の歳月と1700万円（生涯学習のデータベースも入れて）の費用をかけて、今年5月10日より運用を開始した。運用のねらいや特徴を詳しく説明していただいた「ここからネット」は、市民主体のまちづくりの実現に向けて市民活動支援のためのウェブサイトを開設した。まず情報検索は団体名、ジャンルから検索するが、公的サービスをまず探して、その後、市民団体の活動。両方を掲載されている必要があるので、このようなつくりにした。例えばボランティアをしてみたいけど、どこで何をしているのかを地図から探せる、「ここからネット」の市民活動と市の情報をまとめて地図で見られる仕組みは国内初（静岡市調べ）である。興味のある市民活動をメニューから探せる、テーマページから探せるLINEから投稿できるが、登録団体の写真やイベント・活動情報のみで、個人からの投稿やSNSの掲示板機能はつけていないことで、チェックの必要がないようにしてはあるが、市と市民活動センターが1日1回チェックしている、情報の掲載についてはそのまま載せており、審査に数日かかるのはタイムリーではなくなるため（※NPO法では、市民がチェックするという形なので、載せたものは市民にチェックしてもらうという考え方）で問題があれば通報してもらうようになっている、基本的には事後チェックとなっている。また、大きな特徴として市民活動(NPOボランティア等)の団体イベント、募集等の情報をオープンデータとして提供することであり、市民活動に関係する分野生活に密着した市の情報もあわせてオープンデータ化して提供する。静岡市はオープンデータ化の先進地であり基本方針も定めてある。



静岡市オープンデータ基本方針

1. 静岡市が保有している情報は、個人情報等を除き原則としてすべてオープンデータ化している。
2. オープンデータ化する情報は、すべての人が利用可能なものとする。
3. オープンデータ化する情報は、原則として営利・非営利を問わずに二次利用を可能とする。
4. オープンデータ化する情報は、可能な限り機械判断読可能なデータ形式で公開する。
5. オープンデータの活用については産学官で連携し、オール静岡の体制で取り組む。

例えば保育園、学校文化財、各種窓口などの情報を手軽に、検索できるようにいくつかの工夫がしてあり、親しみやすいような写真を多く選んで使っており、30～40歳台の子育て世代向をイメージしてデザインされている。検索の方法はスマートフォンで検索するのが、8割以上である想定でスマートフォンで見やすいように作ってある。地図を重要視していることが大きな特徴で、例えば検索したいキーワードが「子育て」だとすると、市民活動団体（NPO）マップと子育て支援マップ（未就学向け）がでてきて、用途に合わせて選択すると、地図上に掲載されていて、自分の住んでいる、あるいは職場の周辺では、どんな活動している団体（NPOなど）がどのような活動をしていてどこで何が行われているのかを紹介している。また、子育てに関する施設なども地図上で紹介されており、住んでいる地区の学校区（国土交通省のデータ）が地図上で表示されているのも特徴の一つで、保育・幼稚園を選ぶときに校区は意外と分かりにくかったりする時があるので、良く考えられていることである。市民活動のサイトでは、といった意見もあるが、仮に子育てサービスに困っている市民がいたときに、市のサービスでは解決できない時に、「市民活動は行政ができないことを補ってくれている」市の情報と市民活動の情報と両方とも一緒に情報を発信することで、今まで気が付かなかった市民活動の情報を知ること、子育て支援のニーズに、応えたいとの思いが込められている。現在、静岡市には静岡市清水市民活動センターと静岡市番町市民活動センターの市民活動センターの2か所を利用し活動している、登録団体は1021団体の市民活動をしている団体があり、ここからネットに登録されている団体がおおよそ500団体でその内訳は、内閣府で公開されているNPO法人が334団体ですべて登録しており、それら以外の市民活動センターで公開を希望しているすべての団体を掲載しており、センターにある情報と同じ情報がネット上にあるようにしてあり、全ての登録団体の情報が出てくるように登録が行われている。「ここからネット」への登録数は、運用開始から少しずつ増えている。市民活動センターを利用している団体は50～60歳代が多く、ホームページ立ち上げが苦手な団体や各団体単位でホームページを持たない団体はセンターで登録を行っている、また、検索してホームページが見つからないと怪しい団

体と思われるが行政が運営する「ここからネット」に掲載することで信用が担保されるなどが登録者増加の理由の一つでもある。今後は若者が主体となって活動している団体も積極的に登録してもらいたい、市民活動センターで登録していない団体も完全には、数は把握はしていないが静岡県全体では、5～6団体が新規で立ち上がっていることもあり、市民の地域貢献の意識は確実に高まっているなかで、「ここからネット」への登録を呼びかけ1団体でも多く増え、一人でも多くの市民に活動や存在を知ってもらうことが、よりが市民生活に身近で役立つものへとになっていく。「地域に貢献したい」との一人一人の想いはあるのだけど、いろんな市民活動、子育て支援団体、ボランティア活動を知りたい、参加したいけど電話や直接訪ねていくのは、なかなか難しい今の時代の実情に沿った仕組みづくりをすることで、実際の活動へ繋がりがやすくなり、参加することで、より地域に愛着を持つきっかけ作りになり、自分の住む地域に関心を持つきっかけとしての入口として、そのためにはできるだけ多くの情報を分かりやすく、身近なものとして出していく事で、敬遠しがちな行政主導の活動や勉強会ではなく、民間の団体で自分のニーズに応えてくれそうな団体探しができる、テーマページをどんどん増やしていけるので、様々な価値観を持つ市民の選択肢を満たす役割を果たす可能性があり人と人が繋がっていく仕組みづくりをしている静岡市の情報発信の取組を、浜田市も参考にして取り入れるべきことがたくさんあるのと考えさせられた事例である。

2 「静岡市議会議員と高校生の意見交換会」についての報告・感想

「ここからネット」は、市民局（市民協働促進係）が主導で行い、市民がまちづくりに関心を持ってもらうことが目的だったが、「静岡市議会議員と高校生の意見交換会」について、静岡市議会も市民に議会に関心を持ってもらえるような取組をしている。静岡市議会・浜田市議会においても、全国的な市政に対する関心の薄さが問題となっており、市議会と市民の距離を縮め



るため、主権者教育の一環として、市議会議員と高校生の接する機会を設け、市議会や選挙身の回りの関心事について、ざっくばらんに話をすることで、高校生に市政や議会・議員に興味や関心を持ってもらうことが目的で、平成29年11月17日に静岡市立高等学校・普通科1～3年生20名を対象に事前アンケートでテーマを設定して行った。12月20日静岡市立清水桜が丘高等学校・商業科3年生19名を対象にフリーテーマで行った。

事前アンケートの内容（静岡市立高等学校）

- あなたは政治・選挙・市議会に関心はありますか。
- あなたは選挙権を得たら投票に行きますか。
- 市民への政治、選挙、市議会への関心を高めるためには、市にとって何が必要だと思いますか。
- 学校や家庭などで政治や選挙の話をすることはありますか。
- 市では様々な施策を実施しています。あなたが興味を持っている施策はありますか。
- その他、こんな施策を実施してほしいなど、市の施策に関し思っていることをお書きください。

事後アンケートより （参加生徒数：静岡高校 20名 清水桜が丘 19名）

Q 「市議会議員と話そう」に参加したことで、議会・議員に対する関心は高まりましたか。

関心が高まった 28名 72% やや関心が高まった 11名 28%

Q 今後今回のように議員と話をする企画があったら、参加したいと思いますか。

はい 29名 74% 誰か（先生・両親・友人等）から誘われれば参加する 8名 21%

わからない 2名 5% となっている。

静岡県視察について

今回は静岡市議会を担当したが、「ここからネット」は市民活動への支援と情報をオープンにして行くことは非常に評価したい。ネット検索は当たり前の検索方法になってきている現在では、浜田市は遅れていると痛感させられた。浜田市議会の広報広聴委員会は、市民と議会をつなぐために議会だよりの発行・議会報告会を企画して行っている。静岡市の2つの取組、どちらも市民に関心を持ってもらうきっかけづくりである。静岡市以外の視察先でも同様であったが、何れも何かをしたら関心が高まると言ったことはなく、地道に歩み寄るスタンスは静岡市浜田市も同じである。今回の静岡県の視察は、学ぶべき点も多く、今後の浜田市議会の広報活動に良い参考になる視察であった。



（静岡市議会議会場内にて撮影）

ふじのくに県民クラブ視察報告書

1 静岡県の概要

- ・人 口 : 3,658,696 人（2018 年（平成 30 年）4 月 1 日現在）
- ・面 積 : 7,777 平方 km
- ・議員数 : 68 人（定数 69 人）
- ・一般会計予算 : 1 兆 1,872 億円

2 ふじのくに県民クラブの概要

ふじのくに県民クラブは静岡県議会内の会派のひとつであり、所属議員数 22 名の第 2 会派である。「命＝命を守り将来の安心な暮らしの実現」、「豊＝『ものづくり』『ものづかい』日本一豊かな県」、「人＝将来の日本を背負える人材の育成」、「礎＝持続可能な静岡県の基礎作り」の 4 つを政策理念に掲げ、積極的に政策立案を行う会派である。

3 視察内容

- (1) 日 時 : 平成 30 年 5 月 30 日（水） 13:00 ～ 14:30
- (2) 場 所 : 静岡県庁 4 階 議員控室
- (3) 説 明 者 : 静岡県議会議員 田口 章氏、山崎 真之輔氏（ふじのくに県民クラブ）
- (4) 調査内容 : ふじのくにカフェについて

ア 担当者からの説明

【開催の経緯】

2015 年（平成 27 年）5 月に会派新体制スタート時の会派方針で「県民との意見交換の実施」を掲げ、ターゲットについて「若者」・「女性」・「子育て世代」に絞り込み検討した結果、若者の政治離れが問題とされている昨今なので、まずは「若者」をターゲットとして意見交換を進めることとした。

2015 年（平成 27 年）8 月、進めるに当たっては静岡大学人文社会科学部の日詰一幸教授に相談をしたところ、学生サークルと連携し「〇〇カフェ」といったくだけた感じで開催した方が学生にとってはいいのではないかと、また「政治とはなにか」ではなく「政策（条例や県政課題）について考えよう」というやり方がよいのではないかと、というご助言をいただいた。

2015 年 9 月に田口氏と山崎氏の共通の知り合いで、東北芸術工科大学コミュニティ

デザイン学科の学生に相談したところ、その学生も会派のこの取り組みに関心を持ってきて、協力して開催することになった。

2015 年 10 月、田口氏と山崎氏の地元の浜松市にある静岡文化芸術大学の地域連携室を訪問し、学生への P R を依頼した。その後は主に口コミによる情報発信で若者を集め、2015 年 11 月に第 1 回ふじのくにカフェを開催することとなった。

【第 1 回ふじのくにカフェ開催内容】

- 開催日時 2015 年 11 月 28 日（土）14 時～16 時
- 開催場所 カフェ・サンフェリーチェ（浜松市内の喫茶店）
- 参加者 大学生 5 人、社会人 7 人、議員 4 人
- テーマ ①子どもをいじめから守る条例をつくろう
 ②グローバル人材育成条例をつくろう
- スケジュール ・趣旨説明
 ・自己紹介アイスブレイク
 ・ワーク①
 ・発表
 ・ワーク②
 ・発表
 ・クロージング

【第 2 回ふじのくにカフェ開催内容】

- 開催日時 2016 年 9 月 10 日（土）14 時～17 時
- 開催場所 まちなかコミュニティスペース A n y（浜松市）
- 参加者 大学生 11 人、社会人 13 人、常陽大学講師 1 人、議員 6 人
 （Facebook ページで P R）
- テーマ 「どうなる？どうする？人口減少社会」
- スケジュール ・趣旨説明
 ・ワールドカフェ方式でライフステージに沿った意見交換
 ①就職・結婚、②出産・子育て、③教育、④仕事・住宅・
 ライフスタイル
 ・発表、振り返り
 ・クロージング

【第 3 回ふじのくにカフェ開催内容】

- 開催日時 2017 年 2 月 19 日（日）15 時～17 時 30 分
- 開催場所 まちなかコミュニティスペース A n y（浜松市）

- 参加者 大学生 7 人、社会人 6 人、議員 7 人
- テーマ 「ライフステージと政治のつながりを考えよう」
- スケジュール
 - ・アイスブレイク
 - ・レクチャー①「ライフステージ」
 - ・ワーク①「これからの人生を考えてみよう」
 - ・レクチャー②「H29 年度 72 事業の概要」
 - ・ワーク②「ライフステージと事業の関わり」
 - ・発表①
 - ・レクチャー③「予算の説明」
 - ・ワーク③「喪失体験ゲーム」
 - ・発表②
 - ・クロージング
 - ・意見交換

【成果】

- ・「静岡県子どもいじめ防止条例（2016 年 12 月公布）」に若者の意見を反映
- ・若者が関心を持つ事業について理解できた。
- ・参加者アンケートにより若者の感じたことややってみたいことが分かった。
- ・若者は政治に無関心なようだが、環境を与えると意見を出すことが分かった。

イ 質疑応答

質問 ツール（事業カード）は東北芸術工科大学の学生のアイデアか議員の発案か。

回答 議員は若者のライフステージに関係のある事業をピックアップして、学生が卒業制作用のコミュニティデザインのツールとしてカードを作成した。カードは 72 枚作成したが、今回のワークに使うには少し数が多かった。

質問 ふじのくにカフェの他に議会報告会はしているのか。

回答 議会基本条例ができていないので、議会全体としての議会報告会は今のところ行っていないが、去年から超党派で高校に出向いて議会報告、出前授業を行っている。会派としてはこれまで 3 回実施している。

質問 高校生に対しても今回使った事業カードは有効か。

回答 カードを使うことでファシリテーターの技量に左右されずに、議論のレベルがある程度平準化される効果がある。

質問 開催地がこれまでは浜松市だけだが、今後は。

回答 中心となった議員（田口氏、山崎氏）が浜松出身だったので、浜松市での開催となったが、今後は東部・中部・西部でそれぞれで行っていった。

質問 条例の制定をマニフェストで謳っているが地方議会での実効性は。

回答 議員発議で条例をつくることは議会だけで完結でき、議会だけにしかできないので、それを会派の主張として成果をあげていきたい。

質問 会派の活動ツールは。

回答 ふじのくにレポート（定例会後）、Facebook、リーフレット

質問 ふじのくにカフェの参加者は常連か。

回答 常連もいるが、そうでない人もいる。社会人はリピーターが多い。県が行っている「次代を担う若者たちによる県民会議」に参加する学生もいる。

質問 ふじのくにカフェの参加費は。

回答 500 円。飲み物とちょっとしたお菓子を用意。

質問 会派内でカフェに参加する議員の選出は。

回答 これまでは浜松市開催だったので、県西部地域出身の若手議員が参加していた。今後は、中部開催なら中部の議員、西部開催なら西部の議員が参加するようにしたい。参加者の人数に対して議員が多くなり過ぎないように調整している。

質問 参加人数は事前に把握しているのか。

回答 Facebook 等で把握している。

質問 浜松市議会の中では議会報告会をやっているのか。

回答 勝手連で女性中心の政策勉強会などはやっているケースはあるが、会派ごとには行っていない。浜松では地域の団体が主催して議員に声をかけてすることがある。山崎氏は「若者政治バル」を主催したことがある。

質問 議会基本条例が不成立の理由は。

回答 最大会派の自民党系が反対。

質問 次回はどのような形で開催するのか。

回答 カードを使うかどうかは考えていないが、次の選挙のマニフェストを題材にして議論したい。事前にテーマを知らせてアイデアを持ち寄って欲しい。

質問 会派のメンバー間にふじのくにカフェに対する温度差は無いのか。

回答 半々ぐらい。若い議員は積極的。今後は地域ごとに関わってもらう。会派内でのカフェの結果の共有はできていない。

質問 意見交換の結果が一般質問で取り上げられたり、県政に反映されたりしたか。

回答 政策への反映はできていると思う。

質問 女性や子育て世代をターゲットにした意見交換会の計画は。

回答 女性については若者の中に多くいるので意見を聞いているが、子育て世代についてはできていないので今後の課題である。テーマ設定が「子育て」となれば、子育て世代に声をかけることになる。



写真 1 視察の様子



写真 2 静岡県庁 4 階 議員控室にて
（前列右から 2 番目：田口 彰議員、前列中央：山崎 真之輔議員）

4 所感

ふじのくにカフェの取り組みは、若者と直接対話をする機会を得ることができるもので、政治に無関心と思われがちな若者の意見を聞き出すために、大変有効な手段である。ターゲットやテーマを絞ったこのような取り組みは、特定の政策についての意見聴取には有効であり、従来の議会報告会とは別に会派や委員会として取り組むべきものだと感じた。このような意見交換会を成功させるためには、ターゲットにあった広報手段や議論の手法、ツールなどの選択が重要で、あわせて議員のファシリテーション能力も必要とされるため、周到な計画と準備が重要である。

広報広聴委員会行政視察 富士市 視察報告書

1 日時 平成30年5月31日(木) 10時～11時

2 場所 富士市役所9階 第1委員会室

3 概要

富士市は世界遺産の富士山のふもとの市であり、日常的に富士山を目の前にして暮らしている。

人口254,201人、面積は245平方km。江戸時代から富士山の豊富な地下水を使用し紙すきが盛んに行われており、現在も紙のまち、工業都市である。また駿河湾において質の良いシラス漁が盛んである。

議会としては浜田市と同じ平成23年に議会基本条例を策定した。

4 調査内容

(1) 高校生対象の議会報告会について

(2) 議会モニターについて

(1) 高校生対象の議会報告会について

○ 議会報告会

- ・浜田市と同じ時期に議会基本条例を策定し、議会報告会は7条に記載。
- ・開催場所…地区まちづくりセンター（公民館）26か所
- ・年1回以上、班単位、毎年11月。まちづくりセンター、市役所、高校で1か所。
- ・議員を6班に分け実施。班の構成、当選回数、会派が偏らないように。
- ・班長会議で、開催場所、時間を協議し決定。
- ・まちづくりセンター（公民館）：平日の夜間（19時～20時30分）
- ・市庁舎：日曜日（1時30分～）
- ・開催告知は広報紙、議会だより、コミュニティFM、SNS、地区チラシ回覧
- ・内容：パワーポイントで（若手議員作製）説明（どこでも同じ説明が聞ける）
- ・結果をすぐに議長に報告。報告書はHPで掲載。
- ・要望、提言等で重要→市長に文書で

↓

- ・実施結果…人が集まらない。平均25人くらい。

この課題から高校生対象報告会へ。

○ 高校生対象報告会

- ・ H29年度から実施。対象は市立高校。
- ・ 実施のきっかけ：高校からの要望ではなく、議会から。
- ・ 学校から議員と接する時間を作ってほしいと提案。
- ・ 高校生を対象とした理由：議会報告会に若い人が見当たらない。若い人に聞いて欲しい。
- ・ 選挙権が18歳からになり、政治に関心を持ってもらいたい。
- ・ 市立高校とは、もともと市と連携が取れている。今までも公民の時間に議員が行っていた。
- ・ 開催方法：富士市立高等学校（県立、私立高校もあるが、市立→交渉しやすかった。）

総合探求コース、3年生2クラスを対象

時限（45分）12月に実施。

- ・ 高校生との注意点：あまりないが、時間が短い中での実施が難しかった。
- ・ 評価：普段接することができない議員と接することができてよかった。
- ・ 今後：できれば高校を拡大したいと思うが、調整していく必要がある。
- ・ 高校生の関心の高まり：判断しかねる。投票率は今後の判断選挙で判断したい。
- ・ 他高校の実施：市立だからできた。県立、私立に関しては学校との調整が必要。

カリキュラムの関係や学校との信頼関係の構築が必要である。

- ・ 高校生との意見交換で議員が一般質問で取り上げたことはない。

○ 議会報告会で事務局として感じること

議会への報告会なのだけど、市民は要望を述べるが、すぐに応えることができないので、市民として関心が低いのではないかと考える。

「質問」

質問 高校生の参加人数と議員の人数は

回答 高校生40人 議員は4人に一人対応。

質問 高校生に関心を持ってもらうための工夫は？

回答 導入としてクイズは市や議員のことについて
（市の産業など、議会の政務活動費は？等）

質問 高校生の声はどうだったか？いろいろな話がでたのでは

回答 議員と身近に接する時間を持ててよかった。

質問 議会報告会として実施したのか

回答 内容は議会報告会として。目的は高校生に議会のことを知ってもらうということ。

質問 報告は

回答 高校生についてはしていない。

質問 より多くの方が発言できるように運営するという観点から、ファシリテーション能力についてや工夫は

回答 班長の采配

質問 実施について内容などは誰が決めるのか

回答 議員が主体で決める。委員会ではなく班長会議で進める。

質問 県立高校での実施は

回答 授業時間を削ることになるので、難しいと感じる

質問 実施にあたっての参考にしている自治体は

回答 ない

② 議会モニターについて

○議会基本条例第8条に記載。

○議会モニターを導入時に、賛成反対があった。

賛成…傍聴が少ないので、対策として。

反対…監視に繋がるのではないのか？

↓

○結果的に懸念していた議会モニターのオンブズマン化は、なかった。

○議会モニター導入に当たり、経費負担が発生しないものを検討した。

○議会モニター

・モニターには本会議で傍聴すること。直接でも議会中継（ネットもあり）でも可。

・アンケート（1年間見てどうだったか？）

・年三回開催。

・資格：20歳以上を現在18歳に。

○一般公募が5名、団体推薦が5名。団体推薦は各地域連合会、NPO連携団体、女性団体など

○委嘱は議長

○謝礼・・・5000円の図書券。1年間最後のモニター会議にて2年間で1万円の図書券。

«質問»

質問 モニターの選定は？

回答 職種などはこだわっていない。団体推薦は、各団体に任せている。

一般公募へは毎回 10 名の応募がある。

応募理由などを見て、正副議長が検討。男女、年齢等の幅を考えているが、現在は男性 8 名、女性 2 名。前は半々平均年齢は 50 代後半。比較的時間に余裕がある方になるかも。

質問 参加状況は？

回答 議会のべ 23 回、委員会 5 人

インターネットも含めて平均 5, 6 回は見ている。

質問 取り組み効果と検証は？

回答 政策提言の場とではないが、アンケート調査や会議での意見をもとに、改善できるものはする。

質問 今までに出た意見は？ ソフトハード面

回答 会議室の場所がわかりにくい。→案内表示を増やす。

政務活動費について…HP に公開はしているが、支出項目がわかりにくい。支出項目まで公開している。領収書は公開していないが、希望があればしていきたい。

委員会での声が聞こえにくい→傍聴者用のスピーカー議会等の案内（SNS など）傍聴の際の議員の顔と名前が一致しない→顔と名前、会派入りのペーパー配布。

質問 モニターの意見の反映は

回答 モニターの意見を議員全員に知らせている。例えば、議員の態度など→緊張感をもって

質問 議会モニター導入の効果は

回答 モニターが友人を連れてきた→傍聴人の増加につながっている。

いろいろな意見を改善に繋げているので、一定の効果は感じている。

質問 市民からの評価満足度は

回答 議員を知ってもらうことについては効果がある。

市民からの満足度はわからない。

質問 模擬議会の実施はあるか

回答 ない。

質問 モニターの留任は

回答 ない。一般公募が 10 人位あるので、新たな方を選んでいる。

質問 条例策定時の反対意見は？モニターがオンブズマン的なものになるのではないか。指摘を危惧しないか

回答 今のところは危惧するところはない。モニター制度がよくないという意見はない。

質問 モニターの年齢構成は？

回答 最年少 20 代後半(女性主婦)、最高齢は 70 代を超えている。仕事をしていると難しい。

質問 傍聴者は増えているか

回答 目に見えてはない。多少なりとも増えていると思う。議会傍聴はネットで見ている人も多い。

質問 議会モニターを 8 年続けているが、提言集などでまとめているか？

回答 外部には出していない。

○ その他（議会だよりについて）

作成は主として事務局が作る。表紙も事務局で。富士山が入っている写真を使用しているが、議員間で検討している。富士山でいいのか？議員から人が入っているのもいいのでは？等。1 部 4 回で 400 万円 9 万世帯配布。広報広聴委員会は確認、意見出しをしている。

5 視察の様子





6 所感

議会報告会に参加する市民が少ないという課題と選挙権が 18 歳に引き下げられたということもあり、高校生の市政への関心度をあげたいということで実施されている。良い取り組みだと感じるが、高校生の意見をもっと聞き、その意見が市政に反映できる仕組みを検討することによって、更に高校生の意識が市政や議会に向くのではないかと感じた。また、報告書は作る必要があり、他の議会報告会と同様に HP などで公開した方が良いと感じた。議会事務局側も内容をしっかり理解してないのではないかと感じた。

議会モニターは参加希望者もある程度あり、毎回任期ごとに人員の入れ替えができるということとは慢性的になっていないということは良いと感じた。モニターからの意見がもう少し活発化するように議会側で検討する必要があるのではないかと感じた。

日本を象徴する富士山を毎日見ながら生活することができる富士市が羨ましいと感じた。議会や議会事務局においては、富士山から元気をもらい、もう少し元気があれば良いと感じた。

以上